

「専門分野の特性と資料(1)：人文科学と社会科学」

【本日のねらい】一次・二次資料の区別に留意しつつ、人文科学・社会科学に共通する専門資料の種類を理解する。

◆ 図書館資料・専門資料の分類（「加工」の度合いに着目して）：第1回の復習

* (1) _____ : 学術論文・学術図書など、「研究成果」として独自の内容をもつもの。(※)

* (2) _____ : (1)を加工・編集してつくられた資料で、(1)を探すための情報源。

* (3) _____ : (2)を探すための情報源。『日本の参考図書』など。

※日記、古文書、観察・インタビューなどで得られたデータ、といったものが「一次資料」のことばで用いられることもあるが、これらは「研究成果」ではないし、図書館では通常は扱われない。

◆ 「研究活動」はどのようなかたちで進められるかー3 類型

* (4) _____ : 文献の内容を深く読み込み、解釈すること。

図書館（アーカイブズ）で文書・史料を探索しその内容を検討することも含まれる。

ポイントは「あらかじめ記録された情報」に接すること。

* (5) _____ : 直接、現場や現地に出かけ、ナマの情報を収集してくる活動。

インタビュー、アンケートなども含まれる。

* (6) _____ : 実験室での作業。

紙と鉛筆での計算から、パソコンでのシミュレーション、さらには大規模施設での実験までも含む。

◆ 学問分野の大まかな分け方

「文系」：人文科学 ((4)中心), 社会科学 ((5)・(4)中心)

「理系」：自然科学, 工学・工業技術 ((6)中心)

※「読解」「調査」「実験」のいずれを行うにしても、(7)_____をきちんと確認する必要がある。(7)をどれだけ確認しているかは、「査読」における評価ポイントのひとつ)

- ・(7)は具体的には…:「自分が研究したいテーマが先に研究されていないかどうか」「研究のこれまでの最新成果はどの程度か」「どのような読解、調査、実験の方法を適用できるか」など
- ・(7)は既存の「一次資料」「研究成果」である学術論文などに掲載されており、それを見つけ出すためのしくみとして図書館がある。
- ・また、「二次資料」を用いて効率よく「一次資料」を探し出すことが求められる。

◆「文系」の種類 ((8)~(14)は日本十進分類法(NDC: Nippon Decimal Classification)に基づく)

- 人文科学の種類

- (8)_____ : 哲学, 思想, 宗教, 心理
- (9)_____ : 芸術, 美術, 音楽, 芸能, 体育・スポーツ
- (10)_____ : 語学
- (11)_____ : 文学

- 社会科学の種類

- (12)_____ : 歴史, 伝記, 地理 ※人文科学として扱われることもある。
- (13)_____ : 政治, 法律, 経済, 統計, 社会, 教育, 風俗習慣, 国防
- (14)_____ : 農林水産業, 商業, 運輸, 通信

・人文科学の特性

「人間の内面及び人間にかかわる諸々の事象を対象とする学問」(樹村房『改訂専門資料論』p. 3)
「過去の「人類文化」の遺産による度合いが自然科学や社会科学よりも相対的に高い」(東京書籍『新訂専門資料論』p.65)

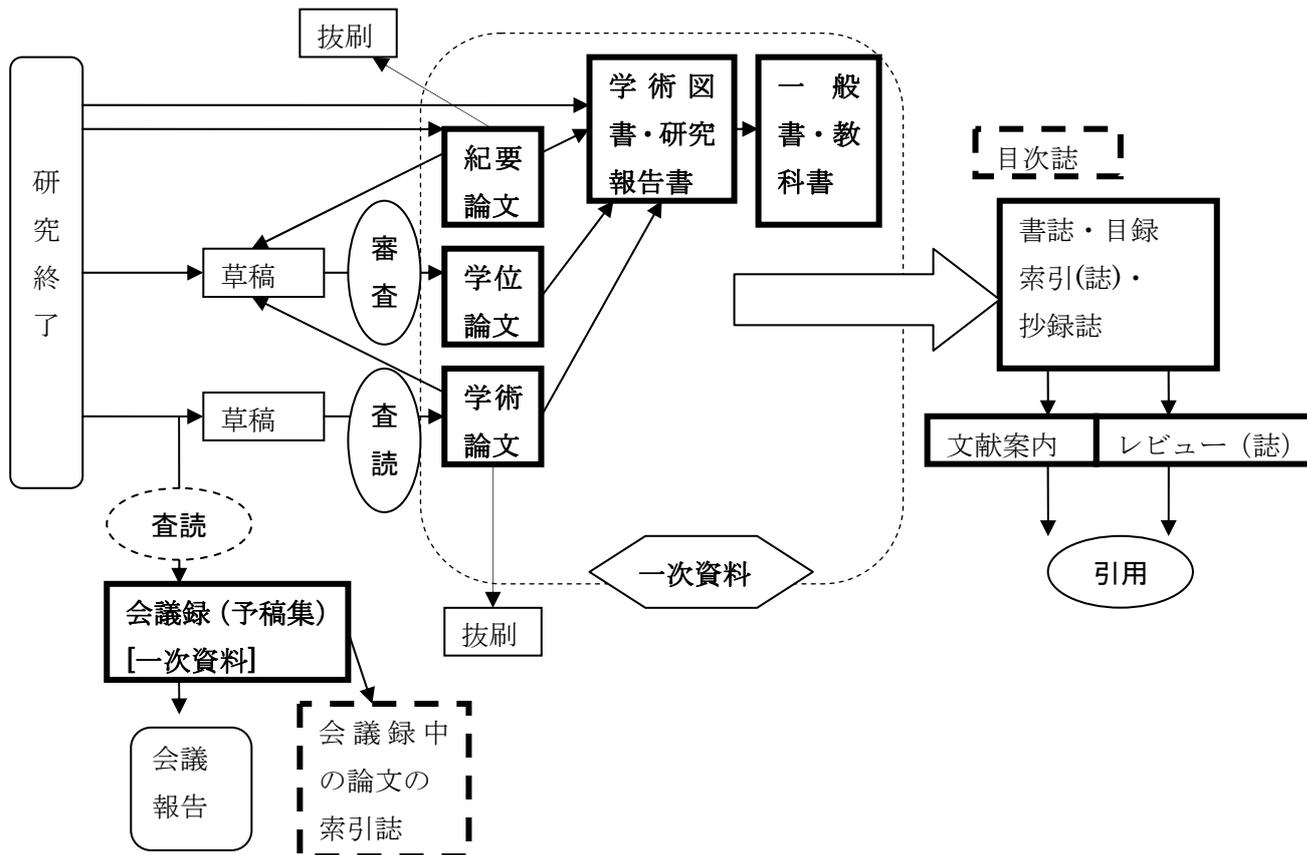
・社会科学の特性

「人間の行為を社会的側面で扱う」(樹村房『改訂専門資料論』p. 7)
人間の内面よりも、人間集団のルール・制度に着目する。
今の社会問題への取り組みを重視する。(人文科学との違い)

◆文系（人文科学・社会科学）における専門資料

（太枠は図書館での「専門資料」として扱われるもの。点線の太枠は日本では未発達なもの）

※ 第 2 回の講義で掲げた「研究活動の過程と、そこで生み出される情報・資料」は基本的な図式であり、文系・理系で違いが生じることに注意。



- ・学術論文：専門資料の中核。学術雑誌に掲載される。
- ・(15)_____：(16)_____ = 「大学や研究機関から出される雑誌」に掲載される論文。大学院生も(16)を書くことが多い。査読は基本的にナシ（あっても甘い）。

※ 参考：CiNii（サイニイ） <http://ci.nii.ac.jp>

日本国内の学術論文や(15)を探し出すためのデータベース。一部は本文も収録。

- ・(17)_____：(18)_____, (19)_____の2つがあり、大学院学生（院生）としての研究の成果として書かれる。特に(19)の多くは今までの論文をまとめ直したものが多い。学会等での「査読」ではなく、大学院での「審査」によって認定される。日本の(19)は各大学に加え、国立国会図書館関西館で保存。

- ・ (20)_____ : 図書のうち、特に研究の成果として書かれたもの。今までの論文をまとめ直したものや、そうせずにいきなり発表・出版される「書き下ろし」がある。

(「書き下ろし」として出されるものは少ない)

(19)もしばしば(20)として出版される。

- ・ (21)_____ : 研究・調査の結果をまとめたもの。国や民間から「研究補助金」をもらって行った研究の報告として書かれることが多い。「査読」はない。

(20)と違い、市場には出回らない ((17)は(21)にはならない)。日本のものは大学図書館や国立国会図書館などに所蔵される。

※ 参考：「KAKEN」データベース (科学研究費成果公開サービス) <http://seika.nii.ac.jp/>
文部科学省の「科学研究費補助金」を得た研究課題を調べるためのデータベース。

(「研究報告書」の本文自体は見られないが、成果としての論文のタイトルなどは分かる)
「どのような研究が(補助金を得るに値するとして)評価されているか」を知る手がかり。

- ・ 一般書：研究成果を研究者向けではなく一般の人々向けに書き直したもの。(最近では「新書」のかたちをとるものが多い。新書を探す情報源として「新書マップ」<http://shinshomap.info>)
- ・ 教科書：研究成果 (特に評価が固まったもの) を学生の教育用に書き直したもの。

- ・ 書誌・目録・索引の区別 **※この3つが、文献を探すための「二次資料」の中心!**

- (22)_____ : 著者名, タイトル, 出版社名, 出版年, ページ数など, 資料に関する特徴を記述したデータ=書誌事項をまとめたもの。

- (23)_____ : 所蔵者(館)名, 所在場所, 配架位置, (雑誌の場合は)所蔵巻号などの所在指示機能が, 書誌に加わったもの。

- (24)_____ : 図書の中にある特定の箇所ないし論文・記事等, あるいは雑誌の中の特定巻号にある論文・記事等について, それらが何ページにあるかといった所在を指示するもの。

※雑誌の形態で発行されるものが「索引誌」, それに抄録をつけたものが「抄録誌」。

- ・ (25)_____ : 各学問分野の概要, 基本文献, 研究方法などをまとめたもの。

- (25)とレビュー(誌)の違い

(25) : これまでの研究成果の蓄積を説明。

レビュー(誌) : 一定期間内(たいていは一年単位)での成果を説明。

- (25)とレビュー(誌)の共通点

書誌・目録・索引(網羅的に文献データを記録する)とは違い,

重要な文献を選択的に記録・紹介する。

※ 「文献案内」の具体例

・「文献事典」シリーズ (弘文堂)

各分野での重要な研究成果に解説を加える。

『社会学文献事典』(1998) 『日本史文献事典』(2003) 『文化人類学文献事典』(2004)
『精神医学文献事典』(2003)

・「研究資料」シリーズ (明治書院)

文学・日本文法の領域で、作家の経歴、各作品の概要、研究状況などを解説。

『研究資料日本古典文学』(1983-85, 全 12 巻 <一部改訂版あり>)

『新研究資料現代日本文学』(2000, 全 7 巻)

『研究資料漢文学』(新装版, 2003, 全 3 巻) など

・その他、教科書や専門事典類が「文献案内」として機能しうる。

【次回予告】

「理系」(自然科学, 工学・工業技術) の専門資料の種類を確認する。